

ジャパン ウェルネス通信

The Wellness Community Tokyo Report

NO.1

2001年秋 創刊号

特定非営利活動法人(NPO)

ジャパン ウェルネス

ジャパンウェルネス開設にあたって



すえすま けいいち
会長 末舩 恵一
国立がんセンター名誉総長
済生会中央病院院長

近年医学の進歩により、がんの治療成績は着実に向上しております。しかし社会的にも家庭的にも重要な役割をになう中高年の方々の罹患率が高いことが極めて重大なことなのです。十数年来日本人の死因の第一位は依然としてがんであり、がん患者さんやご家族が長期にわたり多くのストレスを抱えて生活している事実もあります。

本来がんという病気は「身体の病」であると同時に「心の病」でもあるのです。「肉体的病態に対する医療行為」と同時に「がん患者の心を支える精神的支援」の必要性が求められ、その重要性が認識されてまいりました。まさしくこの時期に日本にがん患者・家族に対する支援システム「ジャパンウェルネス」を発足させた意義は極めて大きく、社会の期待も高まりつつあります。

今後ともご支援ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

わたしたちのめざすもの



たけなが ふみよし
理事長 竹中 文良
日本赤十字看護大学客員教授

私のがんを体験して16年になります。この間、試行錯誤をくり返し本年5月、ようやく念願のがん患者支援システム「ジャパンウェルネス」をスタートできました。ここに到達するまでには実にさまざまな方々の善意の提供や協力に恵まれました。心からの感謝を捧げたいと思います。

このシステムはアメリカに広く展開しているウェルネス コミュニティの日本支部として発足したもので、基本的にはアメリカ本部のマニュアルに準じています。ただいろいろな点で日本人のカルチャーにそって変更を加えました。

このシステムの主体はがん患者さんが集団で話し合うサポートグループで、専門のファシリテーターが司会をいたします。この集団での話し合いの重要性は医学的にも次第に認知されています。そのほか、ストレスに対処するためのパワーを高める坐禅会、自律訓練法、自己催眠法、アロマテラピーにもご参加いただけます。

そして、このシステムにはもう一つ大切なプログラムがあります。それはセカンドオピニオン相談です。日本での多忙な診療で十分な理解が得られないまま治療を受けておられる患者さんたちのために専門医が疑問にお答えします。

米国で花開いたこの「がん患者さんのためのサポートシステム」を日本でも多くの患者さんたちの「希望のともしび」として育て上げたいと願っております。

会員数550人を超え サポート活動も順調に経過

私ども「ジャパンウエルネス」以下「当会」は、がん患者さんとご家族への精神的サポート活動を行うことを目的として、今年5月1日、東京都港区赤坂に設立いたしました。5月17日には正式に特定非営利活動法人（NPO）として認可され（財）日本対がん協会の協力を得て活動を開始しております。

設立からおよそ5カ月が過ぎた10月末には会員数も550人を超え、サポートプログラムも順調に稼働しております。

つきましては今後とも、当会へのいっそうのご理解とご支援をお願いいたします。

設立の趣旨と活動内容

がん患者と家族の長期にわたるストレスを軽減し、免疫力向上を図る

今や、日本人の2人に1人ががんにかかると言われており、自分自身や家族・友人など、すべての人ががんと関わり合う時代となりました。

医学の進歩により、がんの治療成績は着実に向上しており、がん患者の5年生存率は60%を超えているとの報告もあります。しかし、日本人の死因第1位は依

然としてがんであり、がん患者さんやご家族が長期にわたり多くのストレスを抱えて生活しているのも事実です。

がんという病気は、「身体の病」であると同時に、ストレスなど精神的な要因から「心の病」でもあることから、近年特に「がん患者に対する心のケア」の重要性が認識されるようになっております。最近の医学的研究（精神神経免疫学等）では、人間の心の動きは身体に影響し、心理的援助を行うことで、がん患者のQOL（生命の質）や免疫力が向上すること

が明らかになっております。

当会は、病院での検査や治療など科学的な医療を前提として、その治療効果をあげていくための補助的な手段として、がん患者さんとご家族に対する精神・心理的支援を行うことを目的に設立し、以下のような活動を行っております。

サポートグループの実施

新しい生活のために、がん患者さん同士が対話

当会の活動の中心になるものが「サポートグループ」の実施です。これは、がん患者さん同士の相互対話を目的とした会合で、欧米では「グループ療法」として、患者の免疫力向上や延命効果のある方法として普及してきています。

患者さんは、がんに罹患することで、肉体的、精神的に大きなダメージを受け、それが長期にわたります。そうした患者さんの本当の苦しさや絶え間ない内面の葛藤といった事柄を真に理解できるのは、同じがんを患った患者さん同士であると言えます。

「サポートグループ」は、がん患者さん同士が相互対話し、情報交換をしていくことで、精神的な孤独感から解放され、

さらに病気へ取り組む新たな気持ちと方法を見つけていくことをねらいとして実施しています。そうした前向きな気持ちになることこそが、新しい生活の第一歩であり、がんに対する治療効果の向上につながるというねらいです。

セカンドオピニオン相談

複数の医師による第三者的相談

がんは生命に危険のおよぶ病気であるだけに、その検査結果の評価や、治療方法の選択は、患者さんたちの最大の関心事といえます。本来、治療方法の選択に際しては、医師と患者さんが十分な時間をとったうえで相談をし、あらゆる可能性を考慮しながら決定していくことが望まれますが、現在の日本では「三分診療」といった言葉に表れているように、そうした十分な時間をとる余裕はないのが現状です。

そこで、現に患者さんたちがかかっている病院の検査結果や治療方法について、複数の医師が第三者としてのアドバイスを行うのが「セカンドオピニオン相談」です。いわば、患者さんたちが確信をもって自分の治療に対する方針を見定めてもらうための相談業務といえます。

補助療法の実施

ストレスの意識的コントロール

がんを治療したとしても、患者さんが再び長期にわたるストレスなどにさらされるのでは、治療効果の向上は期待できません。そこで、患者さんが生活の中のストレスを少しでも減少させられるよう、リラクゼーションのためのいくつかの方法を補助療法として行っています。

現在行っているのは「坐禅」「自律訓練法」「自己催眠法」「ハーブアロマセラピー」の4種類で、いずれも生活の中で気持ちをリラックスさせて、ストレスを意識的にコントロールするための方法です。

活動の状況・会員数

当会の会員は、正会員（がん患者さんとそのご家族）、賛助会員（法人およびがん患者さん以外の個人）の2種類となっております。10月末での会員数は次のとおりです。

正会員	278人
賛助会員（個人）	235人
賛助会員（法人）	38社
合計	551人（社）

プログラムの開催状況

サポートグループ

現在、サポートグループは、14グループで計113人の患者さんが会合に出席しサポートを受けている状況です。会員は増加中であり、今後もグループ数は増加する予定です。



患者さん同士が会合する落ち着いた雰囲気の一部

セカンドオピニオン相談

また、セカンドオピニオン相談は、水曜日と金曜日の週2日開催していますが、10月末までに85組の患者さんが相談を受けています。

補助療法

さらに、補助療法の開催と参加者数は次のとおりです。

坐禅	8回・122人参加
自律訓練法	20回・77人参加
自己催眠法	3回・34人参加
ハーブアロマセラピー	12回・66人参加

特集

ジャパン ウェルネスの活動プログラム

活動の基本的な目的は、「がん患者さんが病気に取り組む意欲を持っていただくよう、サポート」をすること。そのために、がん患者さん同士が思いを語り合う「サポートグループ」や、坐禅、自律訓練法などの「補助療法」、そして複数の専門医が医学的な疑問にお答えする「セカンドオピニオン」といった活動を行っています。

患者さん同士であればこそ 同じ地平に立って話ができる

1 サポートグループの内容

サポートグループの基本的な内容は、患者さん同士が自分の病状、がんに関連してから出合ったさまざまな事柄について、お互いに話をしていく会合です。

患者さんは、がんに関連するこ
とで、肉体的、精神的に大きなダメージ

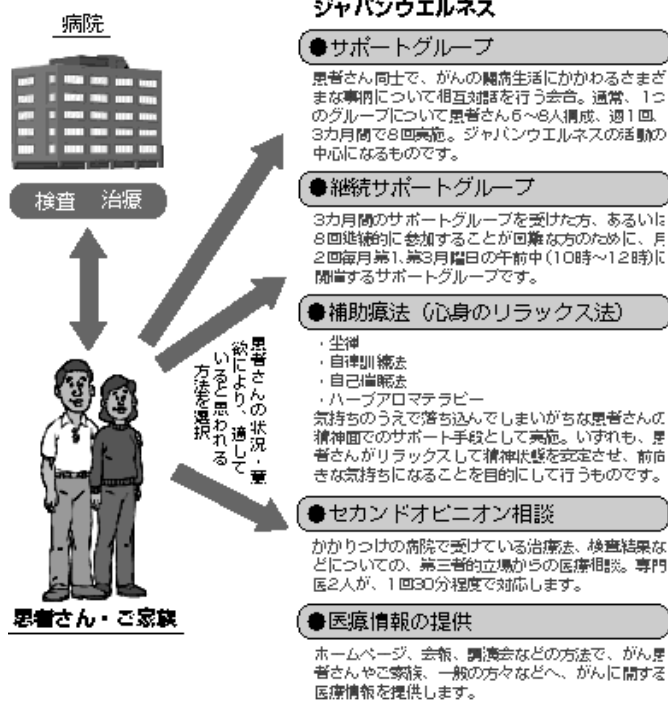
ダメージを受けます。そのダメージは、治療の進行や患者さんの治療への意欲、そして患者さんを取り巻くご家族などの支援によって次第に回復することが期待されま
す。しかし、患者さんの本当の苦し
さ、悲しさや悔しさ、さらに患者さんの絶え間ない内面の葛藤と
いった事柄は、ご家族といえども、

同時的にはなかなか理解すること
はできません。そうしたことから、
患者さんは自分の置かれた状況に
ついて、一人で悩むという状態に
陥ることもあります。
そうしたときに、真にがん患者
さんの置かれた状況を理解でき、
患者さんと同一の地平に立って話
ができるのは、同じがんを患った
患者さん同士であると言えます。
患者さんは、サポートグループ
の中で自分の体験を話すことで、
自分の内にあるさまざまな思いを
打ち明けることとなります。そし

て、別な患者さんの体験を聞くこ
とで、自分の置かれた状況が決し
て自分一人だけのものではないと
理解することにつながります。ま
た、こうした話し合いの中から、
自分の参考になる病気へのアプロ
ーチのしかたが見つかる場合もあ
ります。
サポートグループは、患者さん
同士の相互対話と情報交換をと
して、精神的な孤独感から解放さ
れ、病気に取り組む新たな気持ち
と方法を見つけていくための一つ
の方法論です。

ジャパンウェルネスの活動内容

ジャパンウェルネスは、病院など医療機関での治療などを前提として、がん患者さんご家族に対して、精神的なサポートや、がんに関する医療情報の提供など創発的なバックアップを行うことを目的としています。したがって、直接的な治療行為を行う機関ではありません。



共感そして笑顔

サポートグループの現場から

月曜日から金曜日まで、午前・午後それぞれ1グループ(土曜は午前中のみ)のサポートグループが行われています。グループには、疾患別と混合グループがあり、現在、乳がんグループ3、肺がんグループ2、消化器グループ2、混合グループ3の計10グループがあります。

6~8人の参加者と2人のファシリテーターが円形に座り、ピーンと張り詰めた雰囲気、最初は視線のやり場に困っておられる方もいらっしゃいます。まず自己紹介から始め、これまでの治療経過や再発・転移の不安、検査結果を聞く前の恐怖などが語られると、「私もそうです」「その気持ちよく分ります」など、共感が広がり、参加者の表情、場の雰囲気が少しずつ変化していきます。

がんと告知された時のショックや驚き、医療者への感謝と心ない言葉への憤り、抗がん剤や放射線治療の副作用の辛さ、治療に対する迷い、退院後の落ち込み、死について、役割喪失や変化、家族や友人との関係の変化、代替療法に関する情報交換などさまざまな話題が展開されます。

再発・転移を経験しながらも前向きに生きている方の存在そのものに励まされたり、がんが第2の人生を与えてくれたという発言に発想転換し少しずつ笑顔が増えていきます。サポートグループが、笑いで一杯になることもしばしばです。

がんという病を経験している者同士の共感を得て、心からの笑顔になれるのだと実感しています。

奥原秀盛(プログラム・ディレクター)

2 メンバー・開催回数

1つのサポートグループは、患者さんが6~8人構成でメンバーが固定されています。そして、患者さん以外に「ファシリテーター」という患者さん同士の会話の仲立ちをする司会役が2人入ります。基本的には週1回1時間30分の会合を3カ月で8回行うことになっています。

ファシリテーターは、看護学、心理学などの専門家です。患者さん同士の話を円滑に進める進行役

を務めています。患者さんの話の内容は決して単純でなく、一人の話が多岐にわたる問題を含んでいる場合が少なくありません。ファシリテーターは、話題の中に含まれている問題点を的確に把握して、患者さんの意見を聞いたり、感想を求めたりしながら、話題が偏ることなく進行させる役割を果たします。

3「継続サポートグループ」も実施

サポートグループは、基本的に毎週同一の曜日に開催することに

なっていますが、検査や治療などで、患者さんの都合がつかずに出席できない場合もあります。また、サポートグループをひと通り終えた後も、引き続きサポートグループに参加したいという患者さん

もいらっしゃいます。そうした方々のために、どなたでも参加できる「継続サポートグループ」も開催しています。



ジャパンウエルネスのホームページ
<http://www.japanwellness.jp>

4 ホームページの掲示板

当会はインターネット上にホームページを設けており、いくつかマスコミに取り上げられた後、アクセス数は急激に増えています。

その中には掲示板(Talking Room)が設置しており、どなたでもインターネットから書き込みができるようになっています。

はじめはスタッフや顔見知りのボランティアの書き込みが続きましたが、一般の方、地方にお住まいの方などの書き込みがあつという間に増えました。

闘病中の方々の励ましあい、ご家族の悩み相談、情報交換なども次々に寄せられており、「インターネットでのサポート・グループ」を目的にしています。

自分にあつた方法に取り組める いろいろな補助療法

1 坐禅

坐禅というのは、自分が置かれた状況を正しく見つめ、自分を取り戻すための一つの方法です。その中身は、坐禅を組むことによつて、まず頭の中を空にするということ。坐禅は一種の呼吸法です。坐禅を組んで、呼吸に意識を集中することによつ

て、常にある不安などの雑念から離れ、頭の中をいったん空にする。その上で自分の行うべき事柄を正しく見つめてもらうというねらいで行っているものです。また、坐禅の指導には禅宗の僧侶の方があたります。坐禅の後には法話の時間をとつてあり、連続と続く仏教での生死観、世界観にもとづく話の中から、



個々の方々がこれから行う事柄について、ヒントを得ていただきたいと考えています。

坐禅の時間は、京都・大徳寺龍泉庵の松濤諦雲住職の指導により行われており、座り方の指導から始まりますので、初めての方でも安心して参加できます。

2 自律訓練法

自律訓練法は、人間の心身を緊張状態から弛緩（リラックス）状態へ、また興奮状態から鎮静状態に調整するための方法です。いわば、生活の中で意識的にリラックス状態をつくりだすための方法といえます。

現代人はストレスに囲まれて生きているとも言われます。ストレスは、まったく悪いばかりのものとは言えませんが、大きなストレスに常にさらされていれば、心身症、神経症といった病気の原因ともなりますし、がんもストレスが悪化の一つの要因になると言われています。

自律訓練法は、心身の緊張状態を緩和することで人の心にかかるストレスを軽減させるための方法で、心身症や神経症など自律神経症状の治療・予防の方法として用いられています。がん患者さんは、日常的に大きな不安（ストレス）をかかえていて、それが何かのき



ハーブの心地よい香りを楽しむアロマセラピー

っかけで頭をもたげてきて、過敏になりやすいもの。そんな患者さんが、心の安定を取り戻すための一つの方法となるものです。

自律訓練法の時間は、東京成徳大学助教授・斎藤義浩さんの指導により行われています。

3 ハーブアロマセラピー

この時間を担当する原田さんは、アロマセラピーアドバイザー、ハーブインストラクター、

主治医以外の専門医に 疑問や悩みを打ち明ける

セカンドオピニオンの現場から

日本の医療の問題点の一つは診療時間の短いことです。

患者さんたちは医師への遠慮もあり、ご自分の受けている医療について十分に理解できず数々の疑問を持っています。

セカンドオピニオンの現場から具体的に言いますと、患者さんたちは、

1. 今受けている医療をもっと詳しく知りたいと思っている。
2. 代替療法や最近話題の療法について医師の説明を聞きたいが、なかなか切り出せないし時間の余裕もない。
3. 日頃、頭から離れない再発とか予後についても詳しく聞きたいが、多忙な主治医の機嫌を損ねるのが心配。

以上のような状況にいる方が多くみられます。こちらのセカンドオピニオンには、11月初めまでで85の方が相談にお見えになりました。相談内容で多いのは、乳がん、大腸がん、肺がんなどの術後の再発に伴うさまざまな問題です。そのうち緩和ケアでの対応以外に方法がないと考えられたのは3人だけでした。

私どもの考えるセカンドオピニオンの基本的な姿勢は、

1. 「がんについての必要な知識」を整理しよう。
2. 「がんなんかに負けないぞ」と考え、完治はしなくともがんと共に生きる休眠状態をめざそう。
3. 「人はどんなに死に近づいても、心は最後まで成長する」というヴァン・デン・ベルクのことを思い出そう。

以上の3点です。

竹中文良

ティーコーディネーターなどの資格を持つ女性。利用する素材は、ハーブそのものであるドライハーブ、ハーブのエキスを抽出した精油（エッセンシャルオイル）、精油をキャリアオイルで希釈したマッサージュオイルなど。そして、こうしたハーブだけでなく、紅茶や中国茶といった素材も採り入れています。

ハーブティやハーブクラフト、温・冷湿布やマッサージュなど、

バラエティ豊かなプログラムメニューも楽しみのひとつ。当会でのこの時間は、ハーブの香りなどを利用して、患者さんたちの生活の中に心地よい時間と空間をつくりだすことがねらいで、そのための実技指導も

4 自己催眠法

行っています。

『潜在能力を活かす自己催眠

法』の著書、島田良典先生（茨城県厚生連総合病院、取手協同病院名誉院長）による自己催眠法が9月よりはじまりました。自己催眠法は自律訓練法と目的は極めて類似していますが、長期にわたり心療内科専門医として治療してこられた島田先生の自己催眠法は極めて効果が大きいと評価され、希望者が殺到しています。島田先生ご自身が2つのがんを体験しておられ、

事務局より

5月の中旬に内閣府からNPO法人の許可を受け、早いもので5カ月が過ぎました。この間手探りで何とか運営を一つ一つ積み重ねてきましたが、これには多くのボランティアの皆さんや、参加していただいた会員の皆さん、そしてジャパンウエルネスの趣意にご賛同いただいた賛助会員の方々による善意の賜物とあらためてお礼申し上げます。

立ち上げ当初は、なれないことで電話の対応一つをとっても皆さんに大変ご迷惑をおかけしたと思います。やっと最近になって事務局として少しずつ自信を深めております。しかしまだ会員数増加によるコミュニケーションスペースの確保や適切な専門司会者（ファシリテーター）の増員、そしてなんとこれも運営経費の捻出に苦慮している状況です。これからも会員の皆様や賛助会員の皆様の大きなご協力と後押しをいただいでこの会を発展させ、がんによって悩み苦しんでいる人たちの役に立てればと考えております。

事務局としては、この「ミニ通信」を、会員、賛助会員の皆様と定期的にコミュニケーションする「ふれあいの場」として今後発行していきたいと考えております。どうかこれからもお力添えいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

事務局 / 中村正・スタッフ一同

Japan Wellness Community

活動へのご支援ありがとうございます!!

・賛助会員加入のお願い・

がん患者のためのサポート活動が盛んな米国においては、サポート団体は篤志家や企業の寄付により運営されており、患者側はほとんど費用的な負担がないのが通常の形となっています。患者の方々は、医療費等の個人負担を強いられていることから、こうしたサポートは社会的な支援として行われています。

日本では、こうした活動に対する寄付の習慣が一般化していないことから、当会の発足に当たりましては、サポートを受ける患者さんたちから、会費あるいは参加費の形で費用の一部を負担していただくシステムをとりました。

しかし、継続的な活動を行っていくためには、活動費は基本的に不足しております。そこで、個人、企業(団体)から支援を

していただく方法として、「賛助会員」の制度を設けております。当会の趣旨についてご理解をいただき、賛助会員としてのご加入をお願いする次第です。

会費金額

正会員	入会金2,000円	年会費5,000円
賛助会員(団体)	年1口5万円	
(個人)	年1口1万円	

賛助会員の皆様

2001年11月1日現在 / 順不同・敬称略

[団体]

菱精機(株) (株)京華商会
(株)メトロフードサービス 宇都宮化成工業(株)
(株)地下鉄トラベルサービス 三共エール薬品(株)
メトロ車両(株) ゴードー不動産(株)
(株)地下鉄メンテナンス 目黒化工(株)
メトロ開発(株) (株)三共グリル
(財)地下鉄互助会 三共有機合成(株)
共友ビル(株) 参天製薬(株)
(株)地下鉄ビルディング 日本ビルサービス(株)
(株)メトロセルビス (株)サイエンスインフォメーション
(株)タカノフルーツパーラー 日本乳化剤(株)
明治製菓(株) (株)科学技術研究所
(株)アイデア・システムズ (株)三共化学工業所

[個人] 1口以上

(株)リパティ・インターナショナル 井川克一 田代朋子
三共化成工業(株) 大塚直夫 高藤鉄雄
(株)三共ファーマシー 真砂岩夫 片山幸子
エフピー化工(株) 重藤信 冨中三郎
中外製薬(株) 小嶋歳晴 那須征太郎
富士製粉(株) 織田輝明 竹中諭
塩野義製薬(株) 奥寿夫 竹中馨
北海三共(株) 篠原幸夫
三共製袋(株) 萩尾みどり
大塚製薬(株) 千秋敏
三共(株) 手塚ゆ起子
武田薬品工業(株) 中川信幸

賛助会員(個人)の皆様

2001年11月1日現在 / 順不同・敬称略

長谷川公子 / 北村洋子 / 定兼聡介 / 多屋修一 / 多屋寿子 / 河正子 / 志賀節 / 古澤道子 / 斎藤たきえ / 鈴井優 / 有馬徹 / 竹花忠 / 高辻祥介 / 福留史朗 / 田野辺加代 / 保坂義雄 / 味八木保雄 / 岩池正暢 / 岩井弘子 / 奥地幹雄 / 牛島日出男 / 須永邦明 / 森田耕一郎 / 松下宗嗣 / 荒木洋二 / 平本規子 / 松岡勇 / 堀江峯吉 / 森田忠夫 / 曾澤克夫 / 斎藤育郎 / 福本忍 / 根本はる子 / 渡部鼎 / 白石安比古 / 手塚武博 / 志波智恵子 / 團田誠 / 三田恵美子 / 高柳慶一 / 山本明 / 河村秀穂 / 代田治彦 / 田代均 / 志波武次郎 / 入江祐光 / 吉田朗子 / 宇井博 / 高野雅夫 / 北村フキ子 / 辻辰三郎 / 檜垣嘉輝 / 渡辺誠司 / 串哲也 / 玉井茂雄 / 青木智江 / 岩本順絵 / 濱中信一郎 / 有安ヨシカ / 新野宏 / 滝田栄 / 滝田知子 / 長澤光一 / 錦織葆 / 岡野正夫 / 坂口功 / 黒川紀子 / 椎名充夫 / 金山賢司 / 藤倉國男 / 大木進 / 阿部正和 / 富村義夫 / 遠藤健 / 藤沢孝之 / 佐藤嘉主弘 / 竹村一夫 / 竹村ひさ江 / 小田弥生 / 菊地臣一 / 伊藤利治 / 渡辺幸代 / 津田秀子 / 石黒和夫 / 松本勝 / 保坂正康 / 八幡浩二 / 渡辺和代 / 小嶋歳晴 / 宮田親平 / 柏原保久 / 高橋寛 / 大野視甲子 / 島田良興 / 斎藤道男 / 赤堀トヨ子 / 岡本勇 / 岡本栄子 / 関谷雄孝 / 松川和夫 / 伊藤豊太郎 / 松浦京 / 岡田一男 / 南達さだ子 / 大澤政純 / 北條一穂 / 北村静子 / 佐藤衣 / 田中俊也 / 高松利明 / 高根三夫 / 大和田晴彦 / 一木正恵 / 中井康之 / 渡辺晴一 / 内藤忍 / 芳賀一郎 / 冨中暎 / 高橋元 / 森山堅重 / 遠藤哲 / 福島美枝子 / 江戸屋小猫 / 岡田しげ子 / 黒澤明子 / 猪熊祥子 / 久保倫生 / 木曾勤 / 和田耕三 / 西村昭彦 / 竹内達夫 / 藤沢隆志 / 山田勝 / 鶴田由加里 / 松橋泰子 / 阪田堯 / 那須孝太郎 / 基常弘晃 / 小幡誠 / 堀尾富士 / 田之頭健 / 古畑善章 / ちあき哲也 / 清水高正 / 古川隆 / 田中輝雄 / 田中郁夫 / 川口美智子 / 大場美代子 / 齊藤富士男 / 山内晴子 / 森本育雄 / 三井啓 / 岩沢光子 / 雨宮多喜子 / 伊東悦久枝 / 比留間和夫 / 比留間知子 / 仙波幸男 / 村田正昭 / 遠藤保喜 / 渡辺昌則 / 桜瀬元久 / 安藤敏郎 / 池田彰一 / 根岸豊実 / 高柳仁 / 廣野達衛 / 津田晴男 / 冨岡啓二 / 蒔田己嘉 / 磯山徹 / 河野文雄 / 杉浦稔 / 田中勲 / 小沢明彦 / 片山佳之 / 冨中正平 / 大野善三 / 矢田晃太郎 / 恵原真知子 / 大内周信 / 平岡哲夫 / 森俊頼 / 佐藤私郎 / 安達晴雄 / 中嶋基恵 / 田中義英 / 田中マユミ / 森光徳子 / 須郷響 / 小森谷孝子 / 出口博哉 / 冨田慶二郎 / 貞末哲也 / 柏木多美男 / 山本富美子 / 高良義雄 / 藤田紀良 / 加藤政弘 / 菊池正彦 / 池上康弘 / 一杉安廣 / 吉川郷子 / 近藤勝 / 志賀利江 / 杉山徹 / 清水康雄 / 外山衛 / 平間敬文 / 中神百合子 / 村田歎吾 / 河合康明 / 中村浩彦 / 鈴木良彦 / 渋谷とし子 / 藤富豊 / 石川征四郎 / 亀井宏明 / 盛田厚

ご寄付をいただいた皆様

2001年11月1日現在 / 順不同・敬称略

三共(株) / 長谷川公子 / 北村洋子 / 海老妙子 / 曾澤克夫 / 渡辺鼎 / 古根川為治 / 長澤光一 / 福島美枝子 / 福島謙爾 / 岡田美弥 / 久野木順一 / 河辺進 / 田 / 岡宏 / 永田一郎 / 小野初子 / 猪熊祥子 / 吉田千尋 / ふれあいサポート(株)

特定非営利活動法人(NPO)

ジャパンウエルネス

Japan Wellness Community

東京都港区赤坂3-11-14 赤坂ベルゴ805 〒107-0052

電話 03-5545-1805 ファクシミリ03-5545-1806

郵便振替口座 00190-1-35152

http://www.japanwellness.jp